

第4回 2020 東京オリンピック・パラリンピックとやま戦略会議（概要）

日時：平成29年7月11日（火）15:00～16:30

場所：県庁4階大会議室

1 開 会

2 知事挨拶

3 協 議

アドバイザー

オリンピックの事前合宿等では、高岡市が、ポーランドのオリンピックチームと積極的な交流をしていただくことになった。

各競技で積極的に合宿誘致をしているが、試合（大会）を誘致するのが1番いい、各国との各競技団体と個別に提携をされるのが一番良い。

オリンピックチームクラスになると、国際基準にあった練習場があるかないかという、難しい問題があり、国際基準の施設がなかなか揃わないことがある。レスリングや柔道だと、マットや畳を整備するだけでいいが、その他の施設で国際基準が整う施設があるところは、どんどん誘致の作業をされたい。

今のところ、2020年オリンピックのことは、ほとんど決まっていることがなく、開会式のプログラムや開催の内容、練習等々まだ国立競技場も完成していないので、練習もできない。

国立競技場の完成が近づくと具体的なプログラムができてくる。チケットやいろんなものに関しては、まだ検討中である。

委員

・バレーボール競技の招致活動、事前キャンプの誘致活動について、黒部市と一緒に取り組んでいる現状を報告する。

7月3日に黒部市で事前キャンプの誘致に向けた実行委員会を立ち上げ、8月に、日立（プレミアリーグ女子のチーム）を合宿で呼び、地元のアクアフェアリーズと公開試合も予定している。

実際に事前キャンプを招致した場合、チーム側の要望とか、動線等を検証しようということになっている。さらに招致に向けて動かなければならないが、今年の9月、そしてこの直前にも国際大会があり、それらに出向いて、チームの方々と話をしようと考えている。

来年度には、全日本女子チームに合宿に来てもらおうと、以前に組織委員会やJVA（日本バレーボール協会）へ挨拶にいったときに、お願いしてきている。

JVAでは、来年度に向けて、検討しても良いと聞いている。

一つひとつできることから、バレーボールの女子チームを黒部に呼びたいと取り組んでいる。

・ホッケー競技においては、オリンピック事前合宿誘致に向けた状況について、先日、富山県ホッケー協会が東京オリンピック事前合宿誘致検討委員会を立ち上げた。

ホッケー場や宿泊場所などのことから、誘致できるのかを現在検討している。

ホッケー場の人工芝などがしっかり国際基準に適しているか、国によっては食事面の配慮をしなくてはならないのかということもあり、ホッケー競技として、事前合宿を誘致できるのかを協会で話し合いを進めている。

実際、福井県では、人工芝の張替えだけでも、2億円近くかかったと聞いており、人工芝の張替えが最優先となってくるが、それだけでも多大な費用がかかる。

資料の本県有望な選手たちに、現在男子の日本代表選手として活躍している小矢部市出身の村田一馬選手を、是非加えていただきたい。

・富山アスリートマルチサポート事業の委員会は、富山県のアスリートの競技力を高めるために、継続的にお願いしたい。

パラリンピックで藤井選手が、ボッチャで立派な成績をあげた。その後、藤井さんが、4年後の2020に向けて出るという決意表明をされたので、(ボッチャの)強化指導部長にお会いして、今後強化はどうなるのかを聞いたら、若手中心だが、選手の枠を拡充して強化するとのことだった。

競技団体でオリンピック選手として指定を受けにくいとき、富山県にも、独自の支援を希望する。

選手から、県民が恩恵を得るといえるときには、(プロセスへの支援を、)独自の支援をしなければならぬのではないか。

北陸地区の体力医学会というものがあり、富山のまとめ役をしているので、選手育成、選手の競技力向上に関わる依頼があれば努力できるので、組織に関わらず、柔軟に富山県の人材活用を積極的に心掛けていただきたい。

マルチサポート委員会でのやるべきことは、十分行っているつもりだが、これまで以上に、活用を考えていきたいと思う。

・コーチング、スポーツ心理学といった立場から意見を述べさせていただきたい。

これまでの会議の意見が非常に、反映された予算の配分である印象をかなり受けた。

県民がスポーツに親しむ環境づくりの中で新たにウォーキングイベントの開催など、生涯スポーツに関わることに、非常に力点をおかれている。2020年が終わった後の5年後ぐらいには団塊世代が75歳を越えてしまうという2025年問題、その辺を見越して、今まで運動してこなかった人をいかに身体活動の場に引き出していくかが、非常に課題になってくる時代となってくると思う。

ウォーキングといった観点は、非常にとつきやすく、取り組みやすい。ただ、富山県は積雪寒冷

地であるので、ウォーキングの行動を導くような意味では、ちょっと不利になる部分ではある。

ハード面も含め、高齢者が身体活動に親しめるような環境づくりに着目するのも重要かと思う。

学校における体育スポーツの充実に関して、先程は高齢者に対する投資の話だったが、教育の経済学の中では、幼少期・児童期に対する教育投資の方が、かなり費用対効果が高いという意見もある。これからの時代、高齢者に対するケアもだが、児童期・幼少期に対する予算配分もバランスもみていく必要があると思う。

選手の育成や競技力向上に関しては、2020年まで、何よりも経済的な不安なく、安心して、競技に打ち込むことができる環境を整えることが、非常に重要であり、この予算からも非常に反映されて、いいと思う。

しかし、2020年終わった後、やはり健康維持・増進、医療費削減といったようなところがスポーツの役割となっていく時代を迎えるにあたって、競技力向上に対する経済的支えを維持していくためには、工夫が必要であり、県民からの出資を募る応援団、支援のようなものも、より一層の広報活動が重要になってくる。

スポーツを支える人材の育成で、(部活動の)エキスパート事業が、実際どういう方が登録されているかはわからないが、イメージからすると退職された教員が、部活動を引き続き受け入れていただいているイメージを抱いている。退職後、元気なのは、大変いいことだと思う。その一方、若手の教員の採用でも、若手が育たないと、活気のあるスポーツ場面はなかなか継続されないと思うので、若手の育成も含めて検討していく必要がある。

・水泳連盟では、7月7日に、デンマークの競泳ヘッドコーチが、合宿所の候補地選びのために来県した。県内では、過去にイタリア、スウェーデン、そしてポーランドが合宿をしている。

イタリアとスウェーデンは、監督、ヘッドコーチ、ポーランドは、海外合宿担当役員が視察した。

デンマークはヘッドコーチが来県し、指導者が実際に施設を視察した。

ヘッドコーチが考えている強化トレーニングができるのかできないかが、一番重要である。

その次に、宿舎で、使いやすく、融通が効き、ミーティングルームの使用や、食事は全員が一緒にとるビュッフェ形式というようなことを、具体的に視察した。

その他、町の雰囲気、環境、やはり落ち着きやすい、ゆっくりできるという部分も大事とのこと。競技施設ももちろん重要だが、環境というのは非常に重要視されている。

また、トレーニング場と宿舎までの移動時間は、あまり掛けたくないということだった。

デンマーク視察団は、日本の3箇所を視察予定で、9月ぐらいには(事前合宿の)結論を出したいとのことだった。

また、もうひとつ重要なことは、アジアでの大会が2018年中国の世界選手権、2019年の韓国の世

界選手権 2020 年東京オリンピック、2021 福岡での世界選手権と続くので、4 年間続けてやりたいとのことだった。

日本の気候や、いろんな環境に慣れるためには、やはり事前にチェックしないとイケない。その風土がうまく合わなければ移動する可能性もある。東京オリンピックをメインに考えたときに、やっぱり現場（監督）としては、当然配慮することだと思う。

競泳の場合のチェックというのは、日本水泳連盟も競泳委員長、現場監督が視察に行き決めるので、オリンピックでメダルを取るといふチームが大事にすることを再度確認できた。

東京オリンピックのための競技力向上は、あと 3 年しかないので、現有の日の丸を付けている選手がさらに力を付けるということになると思う。

県水連では、（県出身者で）水球のメンバーが日の丸を付けているので、もっと力を付けさせたい。

日本水泳連盟では、東京オリンピックの後の 2024 年までの強化方針もたてているが、富山県も、粛々と強化を積み上げて、2020 年に間に合わなければ、2024 年ということで進めていきたい。

今年アジアエイジグループが 9 月にあり、飛び込みの選手が一人新たに加わり、水球の新人も一人入るのではないかと思う。

新ルールに対応していくのは重要なことなので、県のプールを早々に（プールを）改修をしていただき、ありがとうございます。

・2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに向けた医療体制の充実で、事前合宿の誘致にあたっては、練習環境や宿泊施設といった面も大切であるが、選手がコンディションを崩した時、怪我や傷害が発生した時に、スムーズに診療を受けられるような体制が重要である。

例えば CT や MRI 検査などをすぐに受けられるかが大切になってくる。

誘致しようとしている国々のチームドクター、トレーナーと連携したメディカルサポートの構築ができるように、事前に準備しておく必要がある。

もちろんドーピングの問題もあるので、ドーピングに詳しい知識を持ったドクターとの連携も必要になり、また通訳やコミュニケーションのこともあるので、通訳ボランティアの育成などもクリアされなければならない問題である。メディカルの面をしっかりと整備することが誘致をするときのアピールポイントになる。

競技力向上対策については、県の総合体育センターでマルチサポートの指定強化選手を対象に運動能力の調査や体力測定、動作分析を行っており、そのデータの蓄積がされてきている。

また、国のナショナルトレーニングセンターでは、国内のトップ選手の体力測定をしており、そのデータベースがあるので、そのデータと比較検討して県の総合体育センターとナショナルトレーニングセンターがより連携しながら、年齢区分や競技特性に合わせた効果的なトレーニング方法、健康管理、傷害予防などの情報をアスリートに提供できたら良い。

競技力向上について、選手たちの栄養面から、現在、公認スポーツ栄養士という資格があり、日本

栄養士会と日本体育協会が連携して養成しているスポーツの栄養の専門家がいる。選手一人ひとりにきめ細かな栄養管理を行う事によって、競技力の向上が期待される。県としても、公認スポーツ栄養士を育成し、積極的に競技力向上という面で活用していけば良い。

・2020 東京オリンピックの数ヶ月前に富山県で国体をする事に決まった。2000 年国体を機にスキー競技の成績が上がり、そして国体の総合入賞が 10 年以上も続いたことがあり、現在のスキー連盟がある。前回の行ったことを基盤にして、スキーの立て直しをやっていかなければならない。

そこでオリンピックの前の国体を県民の意識を高揚させるために、ぜひ成功させなければいけないと思うが、最近冬季スポーツの人口が非常に減っている。是非子供たちにスキーの授業等を通して、冬季スポーツに触れさせる様な広報活動を是非皆さままで考えていただきたい。

特に小学生は非常に大きな可能性を持っている。未来のアスリート事業の予算アップということでそこにも関係してきて非常にありがたいと思うが、前回も言ったように、競技力だけではなく人間力を含めた選手強化を、全ての競技でやることによって、スポーツ全体が認められることになるのではないかと思う。

2020 年というのは一つのチャンスだと思うので、ぜひ頑張って取り組み、協力していただきたい。

・専門的な話はできないが、企業としてバドミントンチームを持っているということで、東京オリンピックに向け、富山県に対して何が貢献できるかということについては、まず我が社の選手を東京オリンピックに出場させることだと思う。今のところアテネから昨年のリオまで 4 回連続出場しているが、昨年のリオにおいては、ランキングの関係上ほぼ無理だと思っていたが、繰り上げで出場させていただいて、4 回連続出場ということになった。本当にオリンピックに出場するということは難しいと感じている。日本で強くても世界ランキングの 20 位以内に入らなければ出場できないので、まずそこ（出場条件）をクリアして、さらにはメダルも狙っていきたい。それが県に貢献できる一番の方法だと思う。また女子選手も 2 名ほど東京オリンピックを目指して頑張っているのだからこちらも力を入れていきたい。

高岡市のホストタウンについてはバドミントン協会として全面的に協力していきたい。

知事

・いま皆さんそれぞれ大変前向きな取組みのご紹介があったので大変ありがたい。

スポーツ栄養士については県内に 3 人いらっしゃるようだ。そのうち 1 人は民間の病院で常勤されている。この先生にお願いして活躍はしていただいている。それで十分なのかどうかはまたよく勉強させていただきたい。

第75回冬季スキー国体（富山県開催）の話が出たが、東京オリパラの直前ということもあり、この機会に小学生に冬季スポーツにも関心を持ってもらえるような努力をしていきたい。

若手の養成という話は、予算の面でも従来に比べ充実させたが、話を伺って、また取組みの充実を図っていきたい。

委員

・受け入れ環境の整備ということで、官公庁が昨年やった調査で、SNSで訪日外国人がつぶやいている中で、日本の環境について不満はあるところは何かというと、公共交通に関することで料金が高い、乗り換えが難しいなど、非常に評判が悪い。

特に問題なところは、多言語対応というか、表記の問題が一番大きいと思う。

2020年に向けて他県ではいろいろ取組みが始まっている。東京都とか京都市では交通事業者間の案内標識を統一したり、街中の標識を統一したりといった活動が今どんどん進んでいる。

富山県内においては、あいの風が新しい車両になって、車内における表示に英語が入ったり、ホームでの英語放送が入ったりとか、大分進歩してきている。

ただ、バスはなかなか進まず、駅の拠点施設がある富山・高岡の駅のバス案内表示はかなりきれいになっているが、残念ながらバス停の表示にはまだ日本語しかないところが多い。

交通関係の不安、安心して歩けないのは非常に大きいと思う。交通事業者や、行政に、取り組んでいただきたいと、具体的に提案していただけたらいいと思う。

・聖火ランナーは、全市町村を走行できるように、富山県だけの話ではないが、ぜひ実現させてほしい。

前回の東京オリンピックの経験から、若い人に与える影響は大きかったと思う。

日頃から指導者の育成には十分取り組んでおられると思うが、何と言っても指導者だと思う。こういう機会に、短期ではなくて、長い目でぜひ人材、お金を注いでほしい。

もう一点、前回のオリンピックと比べると環境その他がずいぶん変わっているので、今回実現できるかわからないが、前回東京オリンピックのときに、私は中学生だったが、中学校から中学生が何人か選ばれて、夜行列車でオリンピックの見学に行った。その列車は県東部だけだったのか、富山県全体の中学生が乗っていたのかわからないが、記憶ではメジャーではなかったが、マイナーな競技の試合を見学した。試合はやっていなかったが、体操競技、バレーボール競技の会場に入って練習風景も見学した。

そういった経験も、何十年たっても、こうやってお話するくらいなので、子供たちにとっては非常に大きな財産になるのではないかと思う。いろんな環境が違えばいい、何とかそういう工夫をして、ぜひそういう機会をつくっていただきたいという願いをしたい。

・29年度の新規事業である東京オリンピック機運創出支援事業について、一流の選手と子供たちが交流したり、子供たちが選手を間近に感じたりすることは、子供たちに夢や希望を与え、大変素晴らしいことだと思う。資料に東京オリンピック・パラリンピックを目指す選手の一覧があり、大半の選手の活動拠点が、東京だったり大阪だったりということであるが、地元のトナミ運輸さんのように、オリンピックを目指す選手がこの地元・富山でトレーニングにずっと携わっていることを間近に感じるというのも、子供たちに夢を与えられて非常に良いと思う。是非、バドミントンで東京オリンピックに出ていただきたい。国体の方でも、今年、女子にも優秀な選手がいるので、男女アベック優勝を目指して頑張ってください。

昭和37年にオリンピック青少年運動ということで、今のスポーツ少年団が産声をあげ、当初は22団体で、700人くらいしかいなかったが、55年経った今年、全国で3万以上のスポーツ少年団があり、約70万人の子どもたちが活動している。最近、中学生の女子は運動離れの傾向にあるが、今回の東京オリンピックを機会に、子供たちには一流選手に触れたり、オリンピックの聖火リレー等々を間近に感じたりしてもらいたい。この会議のいろんなご意見を踏まえながら、そうして少しでも運動に親しむ子供たち、そしてスポーツ人口の拡大に繋がっていけばと考えている。

・選手の（進学時）県外への流出というものを考えていただきたい。県外へ行って、良いチームに入ったからそれで良いだろうという単純な話ではなく、その選手たちがどういう環境で育ってきたのかということが大事で、芽が出ていない選手が結構多いと思う。やはり、地元でしっかりと一貫指導をすることをもう少し考えるべき。クラブに人がたくさんいて活動がうまくまわっておらず、そのうえ中学校にも部活動がない状況で、競技を諦める選手が結構いるということも聞いている。

静岡県では、各中学校の部活動の選手を集めて、県の指導員が選手たちを指導していると聞く。

是非、富山県でもそのような事業を取り入れながら、選手たちが競技を続けられるような環境をつくってあげてほしい。そうすれば、選手の県外への流出も止められると思う。

その話の繋がりで、全天候型のスタジアムや街中スタジアムといったものもあれば、富山は冬に雪が降るから競技ができないといって、選手が県外へ流出するということも減るのではないかと考える。

・陸上競技、障害者といった観点から話をさせていただく。来年開催のねりんピックに向けて、県の総合陸上競技場も、補助競技場も含めてオールウェザー対応にしてください、また大型映像画面も、20数年ぶりに全面変わって3画面になり、リザルトと動画に加え、県外の多くの陸上競技場でもすでに取り入れられている手話も映るようになるということで、県には感謝している。

資料にあるピラミッド型で表された競技力向上対策に関して、オリンピックや国体についてはこれまで何度もこの形で進めてきたが、障害者スポーツについても同様にこのような体制を作っていくべきだと思った。特に、今年の世界を目指す障害者スポーツアスリートの応援事業ということで、新た

に増額していただいたので、そのような選手をいち早く発掘して、良い指導者をつけてあげられるようにしたい。まずその部分からやらないと、大会に参加はできてもメダリストまでなかなか辿り着かないと思う。2020年の東京オリンピックまでもう時間が短いという思いもあるが、その4年後には選手が花を咲かせられるように、協会の皆さんと話し合っ進めていきたい。

・私の一番関心のあるところは、この3年間体育協会に加盟している競技団体がどんな取り組みをしていくか。できれば県体協でオリンピック競技にない種目もあるかもしれませんが、関わっている競技の普及、競技力の向上もふくめて、ぜひ3年間、国民が関心を持っている、いいタイミングなので、やっていかなければと思う。

バレーボール協会の取組みついでの話があったのだが、それぞれの競技から聞けるとありがたい。

6月3日、4日に全日本実業団柔道大会が射水市で開催され、昨年リオ、前々回のロンドンオリンピックに出場した柔道選手、メダリストも参加し、非常に活気のある試合をし、地元の中高生にも刺激になった。

この大会は3年前に誘致して、今年実ったのだが、タイミングよく田知本選手が昨年、金メダルとってくれたこともあり、盛り上がった。田知本姉妹もALSOKチームの代表として出場した。

どの競技団体も競技人口が増えないなかで、非常に良い機会であると思っている。

アドバイザー

・東京にオリンピックが56年ぶりに来ることを利用していただき、スポーツ施策を見直していこうということかと思う。東京の前に韓国平昌で冬季のオリンピックがある。それに出る富山県の候補選手を育てなくてはいけない。

オリンピックを機会に、人口が減っている現状で、子どもがゲーム（コンピューター）ばかりして、体を動かして、外に出て遊ぶ機会が減ってきている。まず子供たちが体を動かすことに取り組ませることが必要。

最初、スタートのころオリンピック種目は、5・6種目で十数種目を経て、いま28種目に増えた。

2020年は33競技がオリンピックに参加するわけで、これは世界最大になる。その次のパリ、ロスまでは決まっているが、今のところ開催される中では、33競技というのは、世界最大のオリンピックになると思う。しかし、オリンピックが大きく肥大化しすぎて、今度は開催都市が、大きいところできないといけないということになる。オリンピックの理念とはだんだんかけ離れ、小さい都市でもできるというのがオリンピックだったのが、お金と競技種目が増えている。

近年、代表選手になるためには、各大陸で勝たないと行かない。今までは、国で1番ならオリンピックに出場できたが、今は国で1番では駄目で、各地域（大陸）で1位2位とか3位とか4位に入らないと、オリンピックにいけない。

各競技団体で出場人数が減っている。なぜかという、オリンピックを肥大化させないために、選

手は1万人、競技役員は5千人ということで決まっており、この枠が広がらない限り、競技種目が増えても、選手を増やさない、お金を抑えるとなっているので、オリンピック予選がかなり厳しくなってきた。

オリンピックの事前合宿を各市町村が誘致に取り組んでいるが、この中で、食事が問題であると言われているが、食事は、日本食でもいいと思っている。なにも西洋式こだわる必要はない。なぜかという、日本レストランが世界中どんな国にいても、小さい都市まで日本レストランが広がっている。従って、日本食を食べたいという外国人が非常に多くなって、日本に行ったら日本食が食べられなくて洋食ばかりだったと、言われ出し始めたので、食事は日本食でも良いと思う。

それから、言葉は通じない。どこの国が来ても。言語が通じない方が面白い。文化の交流になり、手振り、身振り、足振りでその方がもっと交流になる。

しかし、スポーツは全部通じる。ルールが1つしかないから。体操でもテニスでもサッカーでも野球でも陸上でもルールは1つだから全部通じる。言葉と食事は、日本流で交流するのが良いかなと思う。

この際、このオリンピックを利用して、子どもたちをできるだけ体を動かす方にもっていかせるようにしたいと思う。すぐ来てすぐ帰るようなことになっているので、2～3泊させる方がいいと思う。富山県体協の方でいつも小中学生 50～60 人にナショナルトレセンの経験をさせて、一流選手と会い、食事したり、写真を撮ったりしているが、朝、来て夜帰るような日程になっているので、予算の関係もあるだろうが、2～3泊くらいすると、学校の関係もあるけれども、もっといいと思う。

それから、スポーツ医学の問題も出ていたが、スポーツ医学、栄養学、心理学の先生方がナショナルトレセンに集中しているので、大人の方で勉強されたい方は、いつでも申し出ていただければ、スポーツ医学の先生との講習会、スポーツ生理学、スポーツ栄養学なども専門家がたくさんいるのでどんどん交流できるように努力をしていきたいと思っているので、遠慮なく申し出てほしい。

知事

聖火リレーの全市町村巡回については、先日、丸川オリンピック担当大臣と、組織委員会の森会長にもお会いして、富山県として、是非実現したいとお話ししたところであり、今後とも努力したいと思っている。

県外へ選手流失の件だが、必ずしも県外で活躍しているとはいえないという話もあった。

静岡県では部活で学校の規模その他の理由で十分練習ができない生徒を集めてやっているという話があったが、富山県でも「元気とやまスポーツ道場」というのは10年以上やっている。これは学校の規模が小さいとか、スポーツの種類によって、スポーツをやる生徒が少ない場合に学校の枠を超えて集まってもらって、体育館を借りたりしてそこに指導者を派遣することを10年ほど前からやっている。意外と知られていないかもしれないので、PRしていくようにする。

全天候型のスタジアムについては、以前から聞いてはいるが、相当な費用がかかり、文化的なもの

も含めて何千人も入るような施設ができないかという意見もあり、また、昨年、経済文化長期ビジョン懇話会の青年部会からも問題提起があったので、今年度予算に「新たなスポーツ・文化等多目的施設のニーズ等調査」に 250 万円計上した。

聞いている範囲では、熱心な意見もある一方、建設後の維持管理費等を考えた時に、そこまでやるのかという意見も経済界からや、各所であるようなので、県民の皆さんがどの程度のものを望んでいるのかをアンケート調査して、そのうえで判断したいと考えている。

「世界を目指す障害者スポーツアスリート応援事業」についても、障害のある方もアスリートとして大いに飛躍してもらえるように、応援していきたいと思う。

せっかくの東京オリンピックがあるので、子どもたちがもっと体を動かすスポーツに親しむようにしてほしいとの意見があった。県が主催しているウォーキング大会を年4回、私もできるだけ参加して、3kとか5k歩くようにしているのだが、子どもから高齢者まで、幅広い年代から参加していただいている。先日の環水公園のウォーキングにも約 750 人集まった。

それから、富山県にはプロチーム（バスケットボール、サッカー、野球）があるので、子どもたち、親子連れが親しむような機会づくり、子供たちがいろんなスポーツに関心を持つ、テレビで見るだけでなく、自分でやってみようとなるように努力していきたい。

4 事務連絡